

Syllabus III

授業科目	障害者歯科疾患論			担当教員	鮎瀬てるみ・久松徳子・野上朋幸
授業形態	講義	単位数	1単位	開講時期	3学年前期
経歴・役職	長崎大学病院・助教				
授 業 目 標					
(1) 障害者歯科の特質を理解する (2) 歯科衛生士として、障害者の口腔衛生と口腔機能の維持、向上に努めるための基本的な知識を習得					
成 績 評 価 の 方 法					
考査による。また、出席状況および受講態度等を考慮する。					
教科書と参考文献					
・全国歯科衛生士教育協議会編集;最新歯科衛生士教本障害者歯科;医歯薬出版					
履 修 上 の 注 意					
特になし					
No.	授 業 題 目 ・ 授 業 概 要				
1	1章 障害者の概念 3章 障害者の歯科医療と行動調整 5章 リスク評価と安全管理				
2	4章 健康支援と口腔衛生管理 6章 摂食・嚥下リハビリテーションと歯科衛生士の役割				
3	2章 歯科診療で特別な支援が必要な疾患 7章 地域における障害者歯科 8章 障害者歯科における歯科衛生過程				
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

授業科目	高齢者歯科疾患論			担当教員	岡崎 ひとみ
授業形態	講義	単位数	1単位	開講時期	3学年前期
経歴・役職	歯科医師 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科歯科補綴学分野所属				
授業目標					
日本は超高齢化社会を迎え、高齢者の口腔の健康維持・増進には、高齢者の特性に合わせた適切なケアの実践が必要です。精神的・肉体的状態を把握し臨床的で実践的な知識や技法を習得しましょう。					
成績評価の方法					
終講テストで60点以上を合格とする 受講態度等を加味する					
教科書と参考文献					
教科書: 高齢者歯科(医歯薬出版)・・・要購入 参考書: 歯科衛生士のための高齢者歯科学(永末書店)・・・購入の必要はありません					
履修上の注意					
特になし					
No.	授業題目・授業概要				
1	高齢社会と現在の高齢者の歯科保健状況について理解する 高齢者のための保健・医療・福祉システムの現状を説明できる 歯科衛生士の地域包括ケアにおける役割を理解する				
2	加齢による身体的・精神的変化について説明できるようになる 高齢者に多い全身疾患について説明できるようになる 高齢者に特有な口腔疾患について原因と対処法を学ぶ				
3	高齢者の生活機能を評価する指標について学ぶ 高齢者の全身状態を評価する指標について学ぶ 高齢者の服用する薬物と疾患、口腔内に生じる副作用を理解する				
4	口腔ケア時の留意点を理解し、必要な器材を準備できるようになる 急性期からの口腔ケアの重要性を理解し、口腔衛生管理の計画を立案できるようになる 要介護高齢者の特徴を理解し、実際の口腔ケアの手技を学ぶ				
5	摂食・嚥下リハビリテーションを行うためのスクリーニングテストについて説明できるようになる 嚥下訓練、食事支援、誤嚥時の対応について学ぶ 在宅訪問歯科診療における摂食・嚥下リハビリテーションの特徴と歯科衛生士の役割を学ぶ				
6	在宅訪問診療の概要を理解し、歯科衛生士の役割を理解する 介護保険制度と歯科の関わりを学習し、歯科衛生士の役割を理解する 地域におけるかかりつけ歯科の機能について説明できる				
7	歯科衛生過程を理解し、歯科衛生計画の立案ができるようになる 歯科衛生計画を実施し、適切な業務記録の作成および達成度の評価ができるようになる 歯科診療時の口腔保健指導に必要な留意点を学習し、訪問の場の違いに応じた保健指導を理解する				
8	地域保健医療における歯科衛生士の役割を理解する 高齢者の歯科治療を行うにあたって必要なコミュニケーションスキルを身に付ける 他業種との連携をスムーズに行うための技術と知識を身に付ける				
9					
10					

授業科目	歯科予防処置Ⅲ		担当教員	日高 聖・福本 志保・山口 夏海・向井 千裕	
授業形態	講義・実習	単位数	1単位	開講時期	3学年前・後期(40時間)
経歴・役職	日高 聖 長崎大学大学院・小児歯科学・助教(2007年より),小児歯科専門医(2010年取得), 障害者歯科学会認定医(2010年取得) 福本 志保 長崎大学病院勤務 山口 夏海・向井 千裕 専任教員				
授 業 目 標					
歯周治療を目的とした、検査や治療、ブラッシング指導、更に口腔内だけに留まらず生活習慣においての患者指導ができることを目指す。歯科衛生士としてのスキルアップを図ることを目標とする。					
成 績 評 価 の 方 法					
定期試験、実技試験、小テスト、レポート課題、授業態度、出席状況等を総合して評価する。					
教科書と参考文献					
全国歯科衛生士教育協議会監修 『歯科予防処置論・歯科保健指導論』/医歯薬出版 全国歯科衛生士教育協議会監修 『歯周疾患歯周治療』/医歯薬出版					
履 修 上 の 注 意					
常に患者への配慮を忘れず、患者の視点に合わせて治療や指導を行うこと。					
No.	授 業 題 目 ・ 授 業 概 要				
1	【齶蝕予防処置】 PTC、フッ化物塗布の相互実習				
2	小窩裂溝填塞(シーラント)相互実習				
3	フッ化物、小窩裂溝填塞(シーラント)についての総復習				
4	齶蝕活動性試験の総復習				
5	【歯科予防処置】 ・歯周検査、歯周治療の総復習				
6	・模擬患者実習(歯周治療の一連の流れを、身内の方の口腔内で2回実践) (歯科衛生過程の考え方と展開方法を踏まえた上で診査・P検と説明・口腔内写真・SC・PMTCを行い、 2回目は1回目との比較を行う)				
7					
8					
9					
10					

授業科目	口腔保健管理			担当教員	山田智子・山口夏海・手光淳子
授業形態	講義	単位数	2単位	開講時期	3学年前・後期
役職	山田・山口・手光・・・専任教員				
授 業 目 標					
<p>歯科衛生士の立場から、口腔疾患を口腔のみの問題にとどめず、全身の健康問題の視点からとらえる。臨床の場、訪問の場において、口腔内情報・全身の問題点を把握し、個々の患者に適した口腔保健管理計画を作成し患者のライフステージに合った指導や業務記録作成ができるよう実践的な学習をする。</p>					
成 績 評 価 の 方 法					
定期試験、小テスト、レポート課題、授業態度を総合して評価する。					
教科書と参考文献					
<p>「歯科衛生ケアプロセス実践ガイド」医歯薬出版株式会社 佐藤陽子・齋藤淳 編著 全国歯科衛生士教育協議会編集「歯科予防処置論・歯科保健指導論」医歯薬出版株式会社</p>					
履 修 上 の 注 意					
<p>1, 2年次の予防処置での歯周検査・スケーリング・PMTCの実習と保健指導で習得したライフステージに適したブラッシング指導を踏まえて、治療中、治療後も口腔保健を管理でき、健康な口腔内を維持できるような技術の習得に努めてください。</p>					
No.	授 業 題 目 ・ 授 業 概 要				
1	<p>歯科衛生過程について ・歯科衛生過程の意味を理解する</p>				
2	<p>口腔保健管理の演習 ・患者の情報収集、問題点の抽出ができ、指導計画を立てることができる。 ・指導計画に基づき、経過記録の作成から評価までの一連の流れを理解する。</p>				
3	<p>症例1(模擬患者実習症例使用) ・MPS分類とその対策 ・業務記録作成(SOAP分類と指導内容)</p>				
4	<p>症例2(歯肉炎:青年期) ・MPS分類とその対策 ・業務記録作成(SOAP分類と指導内容)</p>				
5	<p>症例3(口腔ケア:要介護高齢者) ・患者の情報収集、問題点の抽出、指導計画を立てる。 ・業務記録作成(SOAP分類と指導内容)</p>				

授業科目	歯科保健指導法Ⅲ			担当教員	山田智子・田島沙織・手光淳子
授業形態	講義・実習	単位数	1単位	開講時期	3学年前期・後期
役職	専任教員				
授 業 目 標					
<ul style="list-style-type: none"> ・個別・集団対象の指導案作成ができる。 ・口腔内環境改善を目的とした、口腔清掃指導ができる事を目指す。 					
成 績 評 価 の 方 法					
・レポート課題・出席状況等を総合して評価					
教科書と参考文献					
教科書…… 最新 歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論					
履修上の注意					
特になし					
No.	授 業 題 目 ・ 授 業 概 要				
1	・業務記録作成(症例)				
2	・模擬患者実習事前実習(患者アセスメントによる口腔清掃指導実習)				
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

授業科目	歯科診療補助法 III		担当教員	塚原朋美・田口裕子	
授業形態	講義・実習	単位数	1単位	開講時期	III学年前期・後期(40時間)
経歴・役職	専任教員				
授 業 目 標					
これまでの実習に加えて新たに口腔内写真撮影や暫間被覆冠作成の技術を習得するとともに臨床実習における技術や知識の不足分を補い士科衛生士としての業務全般のスキルアップを図ることを目標とする。					
成 績 評 価 の 方 法					
定期試験、実技試験、小テスト、出席状況等を総合評価とし、60点以上を合格とする。60点に満たない者には再試験を実施する。					
教 科 者 と 参 考 文 献					
新歯科衛生士教本「歯科材料の知識と取り扱い」医歯薬出版 新歯科衛生士教本「歯科器械の知識と取り扱い」医歯薬出版 最新歯科衛生士教本「歯科診療補助論」医歯薬出版 歯科衛生士のための「保存科アシスタントハンドブック」 歯科衛生士のための「補綴科アシスタントハンドブック」					
履 修 上 の 注 意					
臨床実習における反省点を客観的に把握し、3年次の実習においてその技術向上に向けて努力すること。					
No.	授 業 題 目 ・ 授 業 概 要				
1	暫間被覆冠作成 ・既製冠を利用した方法 ・既製冠を利用しない方法				
2	口腔内写真撮影実習				
3	各種実習復習 ・一人バキューム ・印象採得 ・セメント練和 ・歯式の書き方				
4	トレーセッティング復習 ・レジン充填の流れと器材の受け渡し ・インレー修復の流れと受け渡し ・抜髄、根管充填における器具の受け渡し ・各種外科手術の流れ及び器材の受け渡し				

授業科目	隣接医学			担当教員	江頭 聡子
授業形態	講義	単位数	2単位	開講時期	3学年前期
経歴・役職	平成9年長崎リハビリテーション学院卒業、平成11年言語聴覚士免許取得、平成9年から平成12年サン・レモリハビリ病院勤務、平成14年から三川内病院勤務、現在に至る				
授業目標					
言語聴覚士の職種を理解する、言語聴覚士と歯科衛生士との関係を学ぶ 摂食嚥下のメカニズムの復習、言語聴覚士が行っている摂食機能療法を学ぶ 信頼関係の構築、コミュニケーションの基本を学ぶ					
成績評価の方法					
レポート+授業態度					
教科書と参考文献					
各回毎にプリント配布					
履修上の注意					
眠気あれば、一旦退室しリフレッシュしてから教室にもどること。 表情、発言、行動も見られていることを意識して、授業に取り組むこと。					
No.	授業題目・授業概要				
1	言語聴覚士の紹介DVD 言語聴覚士と歯科衛生士との連携について				
2	摂食嚥下の復習 言語聴覚士が行っている摂食機能療法				
3	信頼関係の構築、コミュニケーションの基本				
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

授業科目	隣接医学			担当教員	須田晶・太田信敬・濱田雄太・村尾知紀
授業形態	講義	単位数	2単位	開講時期	3学年後期
経歴・役職	須田 晶	アキラデンタルオフィス院長		(一社) 佐世保市歯科医師会医療福祉委員会担当理事	
	太田信敬	医療法人敬信会太田歯科理事長		(一社) 佐世保市歯科医師会医療福祉委員会委員	
	濱田雄太	共済病院歯科口腔外科勤務		(一社) 佐世保市歯科医師会医療福祉委員会委員	
	村尾知紀	村尾歯科医院院長		(一社) 佐世保市歯科医師会地域福祉委員会委員	
授 業 目 標					
超高齢化社会を迎え、有病高齢者、要介護高齢者は増加した一方で、障害者の歯科治療についても1次医療のニーズは高まっている。しかしこれらのいわゆる有病者の歯科治療においては、通常の歯科的治療だけにとどまらず、口腔機能を維持するための取り組みが求められる。本講義において、障害や全身疾患を持つ患者の対応について、歯科衛生士が果たすべき役割を理解する。					
成 績 評 価 の 方 法					
筆記試験					
教科書と参考文献					
地域歯科医院による有病者の病態別・口腔管理の実際 (ヒョーロン)					
履 修 上 の 注 意					
特になし					
No.	授 業 題 目 ・ 授 業 概 要				
1	口腔管理総論 小児・障害児の歯科診療システムの構築について 要介護者・終末期患者の口腔管理の意義				
2	障害児・者、妊産婦・新生児の口腔管理について 障害児・者の口腔管理 妊産婦、新生児の口腔管理				
3	成人有病者の口腔管理 脳血管障害、高次脳機能障害、リウマチの口腔管理 循環器疾患、喘息、腎疾患、糖尿病の口腔管理 精神疾患の口腔管理 がん患者の口腔管理 終末期患者の口腔管理				
4	要介護高齢者の口腔管理 要介護高齢者の口腔管理 口腔機能低下患者の評価法と訓練法 認知症患者の口腔管理				
5					
6					
7					
8					

授業科目	隣接医学(口腔ケア実習)			担当教員	山口 方子
授業形態	講義	単位数	2単位	開講時期	3学年前期
経歴・役職	長崎県歯科衛生士会 副会長				
授 業 目 標					
口腔ケアの意義を理解する。 口腔内状態にあった口腔ケアの手技を習得する。					
成 績 評 価 の 方 法					
実技評価 ・ 講義態度					
教科書と参考文献					
各回毎にプリント配布					
履 修 上 の 注 意					
実習室における集中力を高め、口腔ケアの手技習得に努めること。					
授 業 題 目 ・ 授 業 概 要					
1	口腔ケアとはどんなこと？ ・口腔ケアの意義について ・口腔ケアにおける患者さんとのコミュニケーションについて				
2	臨床における口腔ケアの実際を理解する。 ・急性期、維持期、終末期における口腔ケア ・(口腔ケアの手技)				
3	器質的口腔ケア ・口腔ケアに便利な用具 ・実技				
4	機能的口腔ケア ・嚥下のメカニズム ・間接法とその実技				
5	機能的口腔ケア ・直接法とその実技 ・食品の形態と種類				
6	口腔機能スクリーニング ・口腔ケアプラン作成				
7					
8					
9					
10					

授業科目	隣接医学(口腔ケア)		担当教員	大石 佳奈	
授業形態	講義	単位数	2単位	開講時期	3学年前期
経歴・役職	長崎リハビリテーション病院 臨床部 歯科衛生士リーダー 平成19年4月～ 長崎リハビリテーション病院勤務 平成22年8月～ アキラデンタルオフィス勤務 平成25年8月～ 長崎リハビリテーション病院勤務 資格:日本歯科衛生士会 在宅療養・口腔機能管理 認定歯科衛生士 日本歯科衛生士会 医科歯科連携・口腔機能管理 認定歯科衛生士				
授 業 目 標					
1.口腔ケアの意義を理解する。 2.健常者と有病者の口腔の違いが分かり、口腔ケアの手技が習得できる。					
成 績 評 価 の 方 法					
実技評価 ・ 講義態度					
教 科 書 と 参 考 文 献					
各回毎にプリント配布					
履 修 上 の 注 意					
臨床に役立つよう、口腔ケアの手技習得に努めること。					
授 業 題 目 ・ 授 業 概 要					
1	口腔ケアの基礎知識 ・口腔ケアの意義、目的 ・口腔ケアが必要な患者と対応方法				
2	臨床における口腔ケアの実際 ・病期別の口腔ケアの目的(急性期、回復期、生活期まで) ・有病者の口腔ケアの特徴				
3	器質的口腔ケアと機能的口腔ケア ・口腔ケアの物品 ・口腔清掃と口腔周囲筋へのアプローチ方法				
4	症例紹介と口腔アセスメント ・アセスメント内容、記載方法 ・口腔アセスメントの演習				
5	口腔ケアプランの活用 ・ケアプラン作成方法、演習 ・まとめ				
6					
7					
8					
9					
10					

授業科目	隣接医学			担当教員	石橋亜矢
授業形態	講義	単位数	2単位	開講時期	3学年前期
経歴・役職	2017年～長崎国際大学 講師				
授業目標					
介護保険制度を理解し、尊厳を支える介護が理解でき、要支援・要介護者が認定するまでの流れや、必要な介護サービスの種類・利用要件等の一連の流れを理解することができる。					
成績評価の方法					
定期試験、授業態度を統合して評価する。					
教科書と参考文献					
参考文献 「国民の福祉と介護の動向」一般社団法人 厚生労働統計協会 2017年 「介護保険制度の概要」厚生労働省、2017年					
履修上の注意					
授業題目・授業概要					
No.					
1	介護保険制度の概要 介護保険の概要、申請の流れ、介護サービスの種類についてを理解する。				
2	ケアプランに基づいた介護計画が理解できる。(第1. 2. 3表) 担当者会議を通して、計画の修正に気付くことができ、歯科衛生士として他職種との関りを深めることができる。				
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

授業科目	隣接医学			担当教員	石橋亜矢
授業形態	実技	単位数	2単位	開講時期	3学年前期
経歴・役職	2017年～長崎国際大学 講師				
授業目標					
本演習では、介護を必要とする人々がどのような状態であっても、尊厳の保持の観点を把握しながら、専門職として専門的知識・技術を習得し安心した日常生活を送れるように支援を実施することができる。					
成績評価の方法					
定期試験、授業態度を統合して評価する。					
教科書と参考文献					
根拠に基づく生活支援技術の基本(DVD) 「最新 介護福祉士養成講座 生活支援技術Ⅱ」中央法規					
履修上の注意					
履修上の注意					
No.	授業題目・授業概要				
1	自立に向けた介護支援技術 自立支援や自己実現の基礎である食事、移動、移乗、排泄技術についての理解ができる。				
2	自立に向けた介護支援技術(DVD使用) 自立支援に向けた演習を行い実施ができる。				
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

授業科目	接遇作法Ⅲ		担当教員	峰下 和子
授業形態	講義・演習	単位数	開講時期	3学年 前期
経歴・役職	コミュニケーションアドバイザー			
授 業 目 標				
<p>社会人として、歯科衛生士として身につけてほしいマナーを講義。 (身だしなみ、立ち居振る舞い、言葉遣い、会話力、電話の応対など) 講義だけではなく、ふんだんにロールプレイを行い、なぜ接遇作法が必要なのかなども考えていく。</p>				
成 績 評 価 の 方 法				
授業態度、協調性、ロールプレイへの取り組み、試験での評価				
教科書と参考文献				
独自の資料を準備				
履修上の注意				
<p>明るく楽しく熱心に取り組んでほしい。 ペアや、グループで考え行動することが多くなる。</p>				
No.	授 業 題 目 ・ 授 業 概 要			
1	相手に「好感」を持ってもらうために、自分の魅力を知る⇒第一印象チェック			
2	身だしなみ、立ち居振る舞い、挨拶の基本を身につける。ロールプレイで練習。			
3	敬語① 基本的な敬語の練習(丁寧語・謙譲語・尊敬語)			
4	敬語② 応用編(敬語を使えるようになりましょう。練習問題)			
5	会話① 会話の基本(聞き上手のテクニックを知る。話してみる、聞いてみる。)			
6	会話② (先を読む会話)			
7	会話③ (指示の受け方、報告の仕方。報告連絡相談)			
8	電話の応対① 電話の基本(かけ方、受け方)			
9	電話の応対② スクリプトを作る。ロールプレイで実践。			
10	テスト			

授業科目	摂食機能・口腔機能訓練 II		担当教員	山口大樹
授業形態	講義	単位数	1単位	開講時期
経歴・役職	歯科医師 長崎大学病院 摂食嚥下リハビリテーションセンター勤務			
授業目標				
本講義では実際のリハビリテーション訓練手技や、代償法、食事指導、重症嚥下障害者に対する口腔ケアなど、実践的手技の修得を目標とする。				
成績評価の方法				
筆記試験にて評価する。				
教科書と参考文献				
中山書店「動画でわかる 摂食・嚥下リハビリテーション」				
履修上の注意				
授業題目・授業概要				
1	摂食・嚥下障害の診査と評価		摂食・嚥下障害の診査法について学ぶ	
2	摂食・嚥下リハビリテーション訓練 I		摂食・嚥下リハビリテーションにおける訓練の基礎知識を学ぶ	
3	摂食・嚥下リハビリテーション訓練 II		摂食・嚥下リハビリテーションにおける訓練の手技を学ぶ	
4	摂食・嚥下リハビリテーション訓練 III		摂食・嚥下リハビリテーションにおける訓練の応用を学ぶ	
5	摂食・嚥下リハビリテーションの代償法 I		摂食・嚥下リハビリテーションにおける代償法の基礎知識を学ぶ	
6	摂食・嚥下リハビリテーションの代償法 II		摂食・嚥下リハビリテーションにおける代償法の手技を学ぶ	
7	摂食・嚥下リハビリテーションの代償法 III		摂食・嚥下リハビリテーションにおける代償法の応用を学ぶ	
8	食事指導と栄養管理		嚥下食に関する基礎知識と低栄養防止のための栄養管理について学ぶ	
9	摂食・嚥下障害者に対する口腔ケア		摂食・嚥下障害者に対する口腔ケアの手技と注意点について学ぶ	
10	摂食・嚥下障害患者に対する歯科衛生士の役割		医療機関および施設・在宅での歯科衛生士の役割について学ぶ	

授業科目	情報処理論Ⅲ			担当教員	宮崎省三
授業形態	演習	単位数	1単位	開講時期	3学年前期(20時間)
経歴・役職	法人事務局人事課 課長				
授業目標					
表計算ソフトの基本的な使い方から、応用まで表計算ソフトを利用して実践的に学んでいく。歯科衛生士として、顧客データの整理や他の人に見やすい資料作成ができるなど、職場内での日常業務が遂行できるようになる。					
成績評価の方法					
試験課題、授業参加状況によって、総合的に評価する。					
教科書と参考文献					
参考書： 各回毎にプリントを配布する。					
履修上の注意					
各回毎にステップアップしていき、その操作方法を習得していくといった流れで展開するため出席し、その操作方法をしっかりと理解すること。1週間の間隔を埋めるべく、適時復習を実施。わからないことはその場で解決していくこと。					
No.	授業題目・授業概要				
1	Excelの活用(1)	Excelの起動と終了、データ入力の基礎、ファイルの保存			
2	Excelの活用(2)	表を見やすくするための機能① 関数 I (合計、平均、全角・半角) 効率的な操作の修得① 文字の置換え、文字列の結合			
3	Excelの活用(3)	表を見やすくするための機能② 罫線と網掛け、表示形式の利用 配置・インデントの活用			
4	Excelの活用(4)	効率的な操作の修得② 日付の表示形式、データの検索 データの並び替え、集計、ピボットテーブルの利用			
5	Excelの活用(5)	効率的な操作の修得③ ユーザー設定リストの設定 関数 II (順位)、相対参照と絶対参照			
6	Excelの活用(6)	データの分析 関数 III (IF、AND、OR)			
7	Excelの活用(7)	効率的な操作の修得④ 条件付き書式、入力規制、リストの適応 ドロップダウンリストの適応			
8	Excelの活用(8)	効率的な操作の修得⑤ 複数のワークシートの連携 関数 IV (LOOKUP) 日付の概念、時間の計算 関数 V (DATE、DATEDIF)			
9	Excelの活用(9)	効率的な操作の修得⑥ ショットカットキーの活用、印刷の基礎・応用 図の活用 (Print Screen、トリミング、貼り付け)			
10	Excelのまとめとテスト				